

二本松遺跡

2010(平成22)年3月

宮崎県都城市教育委員会

序

本書は都城市高城町前方第2地区において施工されています県営畠地帯総合整備事業(担い手支援型)に伴い、平成20年度に都城市が受託し都城市教育委員会が調査を実施しました二本松遺跡の発掘調査報告書です。

高城町大井手の向原台地縁辺には二本松、霧島元、向原という小字が連なります。一帯は昭和のころから道路拡幅や農作業中に完形に近い土器などがみつかっていますので、二本松遺跡を含む大きな集落が存在した可能性があります。

今回の調査は範囲が狭小なため不明な部分もありますが、弥生時代後期から古墳時代前期にかけての遺構を検出しています。また、瀬戸内系の土器や石器も出土しています。

本書が市民の皆様の埋蔵文化財や地域の歴史理解の一助となり、考古学や地域史の研究資料としてご活用いただければ幸いです。

最後になりますが、発掘調査及び報告書作成にあたり、宮崎県北諸県農林振興局をはじめとする関係各位、地元の皆様に感謝申し上げます。

平成22年3月

都城市教育委員会
教育長 酒 勾 醉 以

例 言

1. 本報告書は平成 20 年度宮崎県北諸県農林振興局の発掘調査委託を都城市が受託、都城市教育委員会が調査を実施し、平成 21 年度調査報告書を刊行したものである。
2. 本書で用いる遺構名及び略記号は、次のとおりである。
SC : 土坑 SL : 大溝 SD : (小溝)
3. 本書で使用した遺構実測図は調査担当が行った。一部文化財課職員栄畠光博、山下大輔、同課嘱託職員中村友昭の協力を得た。遺物実測図は調査担当のもと整理作業員が作成した。石器については文化財課職員栗山葉子の指示で整理作業員が作成した。
4. 本書で使用した図の製図(トレース)は、調査・報告書担当と整理作業員が行った。
5. 本書に掲載した遺構・遺物の写真撮影は同担当が行った。
6. 本書に掲載した方位はすべて真北である。
7. 本書に関する実測図、写真、遺物等は都城市教育委員会文化財課所管の施設に収蔵している。
8. 本書の執筆・編集は矢部がおこなった。

本 文 目 次

1.はじめに	1
(1)調査に至る経緯	1
(2)調査の組織	2
2. 遺跡の位置と環境	4
3. 調査の記録	4
(1)調査の概要	4
(2)遺構と遺物	4
4. 小結	14

挿 図 目 次

第1図 遺跡位置図	1
第2図 調査区域図	2
第3図 遺構配置図と土層図	3
第4図 遺物分布図	5
第5図 土坑	6
第6図 出土遺物①	7
第7図 出土遺物②	8
第8図 出土遺物③	9
第9図 出土遺物④	10
第10図 出土遺物⑤	11

表 目 次

表1 出土遺物観察表1	12
表2 出土遺物観察表2	13

写 真 図 版 目 次

写真図版1	15
写真図版2	16
写真図版3	17
写真図版4	18
写真図版5	19

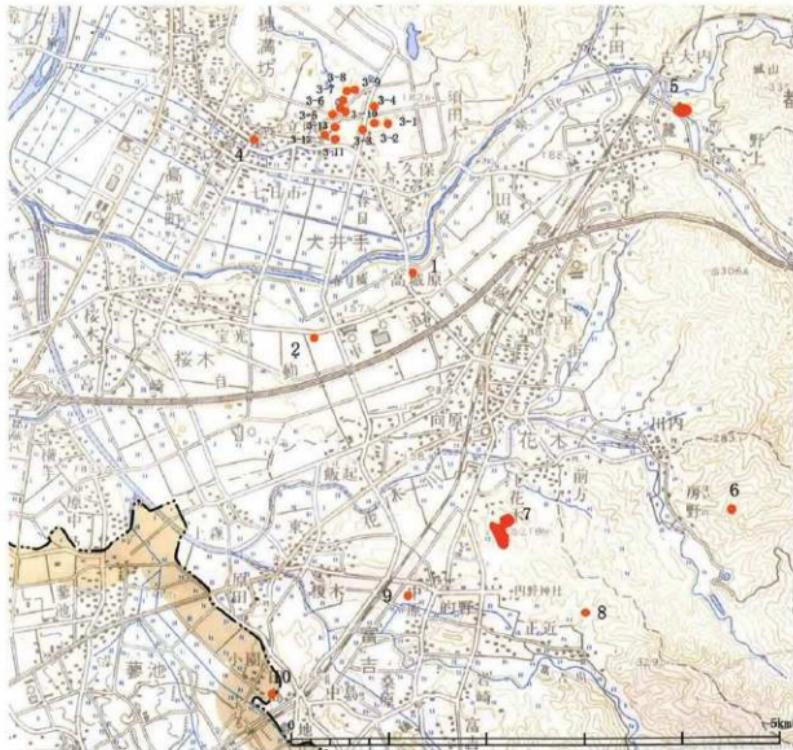
1. はじめに

(1) 調査に至る経緯

平成20年度都城市高城町前方第2地区における県営畠地帯総合整備事業(担い手支援型)については、周知の埋蔵文化財包蔵地二本松遺跡(遺跡番号:tj2010)内に含まれることから宮崎県北諸県農林振興局と宮崎県教育委員会文化財課において事業区内の遺跡の有無について協議がなされた。

宮崎県文化財課は農道建設予定地部分について平成20年7月1日、8月8日に試掘確認調査を実施し、都合5箇所に試掘トレンチを設定した。北側の農道と接続予定箇所のトレンチで弥生土器が多量に出土した。出土部位は地表0.40から1.3mの範囲で堅穴住居跡等の遺構が想定されるほどの遺物量と破片の大きさであった。新規農道は1.5mほど低い既存道と接続させるためスロープ状となる。掘削が包含層以上に達する範囲については発掘調査が必要となった。

発掘調査は宮崎県北諸県農林振興局が都城市に委託した。委託期間は平成21年1月16日から3月25日である。調査は都城市教育委員会が平成21年2月16日から3月19日において実施した。なお、報告書作成については平成21年度に刊行することで合意した。



1 二本松遺跡 2 向原(むかえはる)遺跡 3 県指定高城古墳 4 高城(月山日和城)跡 5 山之口城跡
6 鶴ヶ城(城ノ平)跡 7 三保城(松尾城)跡 8 萩ヶ久保第1遺跡 9 県指定山之口古墳 10 田島かくれ念仏洞

第1図 跡跡位置図

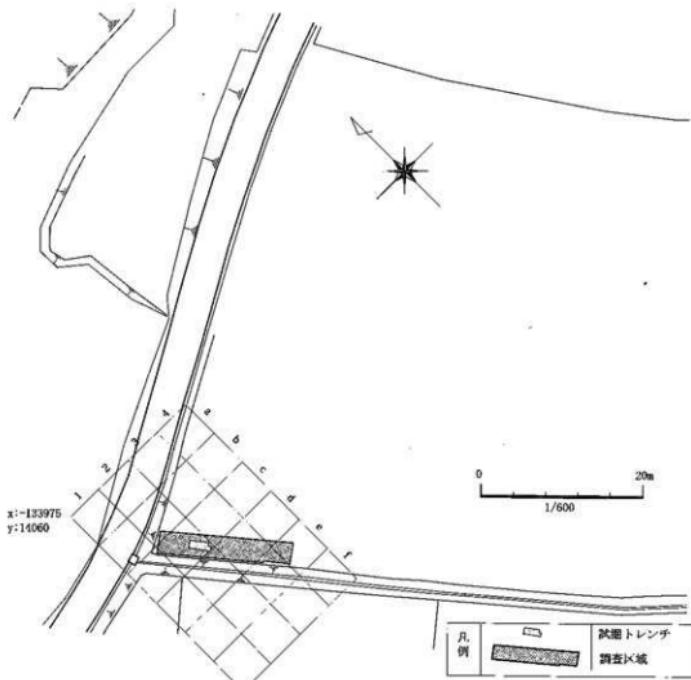
(2) 調査の組織

<発掘調査> 平成 20 年度

調査主体 都城市教育委員会 教育長 玉利 謙
事務局 文化財課 課長 和田 劳律
副課長 常盤 公生
調査担当 主幹 矢部喜多夫
試掘調査 宮崎県文化財課 主査 飯田 博之
発掘作業員 広畠雄二 榎木ハナ 内村好子 竹中美代子 大盛祐子 黒木トミ子 天神利典
整理作業員 福岡八重子

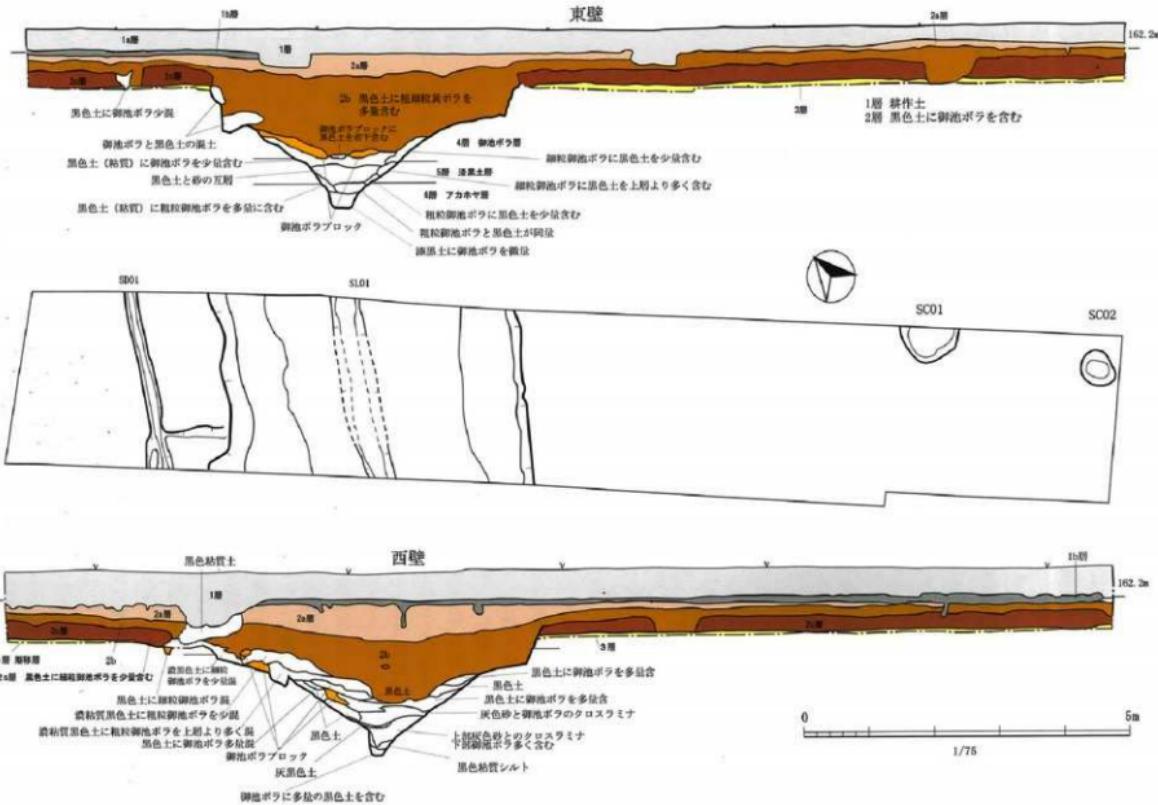
<報告書作成> 平成 21 年度

主査 都城市教育委員会 教育長 玉利 謙 (～H22. 2. 24)
酒匂 醇以 (H22. 2. 25～)
事務局 文化財課 課長 石川 清
副課長 坂元 昭夫
報告書作成担当 主幹 矢部喜多夫
整理作業員 水光弘子 尾曲真貴 横尾恵美子 福岡八重子 吉留優子



第2図 調査区域図

第3図 造林配置図と土層図



2. 遺跡の位置と環境

調査地は都城市高城町大井手 2219-1 に所在する。遺跡は都城盆地のやや北東、山之口扇状地の北縁標高 162.5m ほどに位置する。北面には東岳を源とする東岳川が西流し両岸に沖積地がひろがる。扇状地との比高差はおおよそ 11m である。一帯は向原(むかえばる)台地と呼ばれ、二本松は台地内の小字のひとつである。二本松から西に続く縁辺部にも道路改良や耕作時に生土層がかなり出土しているようである。また、東岳川を挟み対岸には大井手扇状地から高城台地が対峙し、台地上に在地の地下式横穴墓と混在しながら、宮崎県指定史跡高城町古墳が 13 基点在する。前方後円墳 3 基(1・3・6 号墳)、円墳 10 基(2・4・5・7~13 号墳)を数える。

3. 調査の記録

(1) 調査の概要

発掘調査は農道建設に伴う調査のため、調査区域は帯状の長方形である。世界測地系による基準点を基に 5 m のメッシュを設定した。便宜的に東西方向を西から算用数字(1, 2, 3 ...)で、南北方向を北からアルファベット(a, b, c ...)でグリッドを呼称する。また、南北グリッド線は真北を示している。発掘調査面積はおおよそ 53 m² である。

遺跡の基本層序は盆地内の台地上と同じで、第 1 層灰黒土(耕作土)、第 2 層黒色土に御池ボラを含む、第 3 層黒色土と御池ボラが同量の褐色系で硬く縮まる(漸移層)、第 4 層御池ボラ層、第 5 層漆黒土層、第 6 層アカホヤ層と続く。調査は地表面から人力により掘下げた。

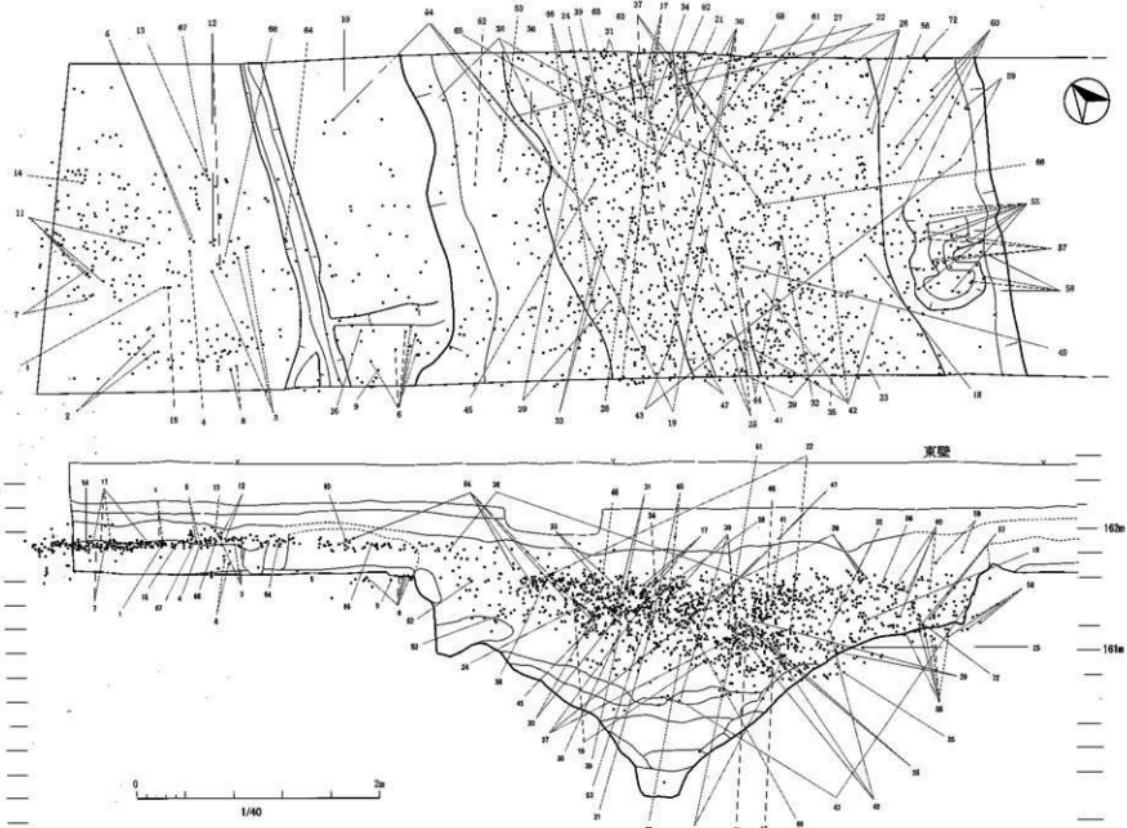
(2) 遺構と遺物

調査区域が細長いトレンチ状をなしているため出たした遺構の全容が、調査の資質にもよるがはっきりしない。はっきりしている遺構は南から土坑 2 基、大溝、小溝である。また、2b 層上面が基本的に大溝と思われる遺構の地表面と考えられる。

大溝北の土器集中箇所 大溝北縁から小溝をまたぎ北側調査壁まである。大溝北 1 m ほどに東西に小溝(SD01)が走行する。検出面で溝幅 0.2m、深度 0.2m ほどを測る。埋土は黒色土である。西側で拡がりを見せ、切り合いの可能性もある。遺物は西側にやや偏って出土する。1~5、7~8、11~15、67~68 と大溝直北の 6・9・16 に分布が分かれれる。前者は何らかの遺構内遺物と思われるほど破片が大きい。1・2 は甕で胴部はさほど張らない。3 は球胴の甕で胴上部にススの付着がみられる。4 は口縁の外反が激しく上位がやや厚ぼったく、口縁は不明瞭で口唇に一条の浅い沈線が横位に走る。8 は小型丸底壺である。15 は表面の風化がみられるが、脚部上部に浅い凹線を巡らせ矢羽根透かしのある高壺と思われる。10 は口唇に凹線文を施す。6・9 と 16 では垂直分布に差異がみられる。6 は丹塗壺、9 は凹線が粗いへラ描きに変化している。16 は高壺と思われ、脚根野肥厚面に 3 条の沈線が横位に走行し、その上位に竹管文を施している。

大溝遺構(SL01) 調査区東壁と西壁での規模は幅 4.7m と 5.0m ほどを測る。検山面より最深部まで 1.8m ほどで、断面は逆フラスコ状をなしている。南側の立ち上がりは検出面より 0.5m 下がり、硬く縮まつた側面は緩慢に落ちていく。北側立ち上がりは御池ボラが極少量混ざった濃黒色粘質土が壁を強化するかのように溝壁に沿うかたちで帶状に堆積している。また、検出面での落ち際は不明瞭である。掘り方はアカホヤ層まで達し、南北に平坦な面をもつことから遺物を大溝のおおよそ中央、北側、南側の順で掲載する。17~21 は甕で胴部径が口縁径を凌いでいる。21 は口縁の立ち上がりがやや内傾気味である。22 は肩部にヘラによる縱方向に 3 cm ほどの沈線が現況 2ヶ所みられる。23~26 は外反する口縁中央がやや膨らむ。24 は器高 13.5 cm の焼成堅緻な小型壺で胴部は縱横にハケメを施す。28 は二重口縁壺と思われる。30 は口縁が直立気味に立ち上がり、口縁中ほどがやや膨らみ端部が僅かに外開きする。35 は小型器台と思われる。36~47 は高壺で口縁径は 16 cm を超えない。36~41 は受部と口縁部の境に稜をもち口縁はやや内湾する。44~47 は脚柱部から直線的に基部が開く。48~49 は大溝内南

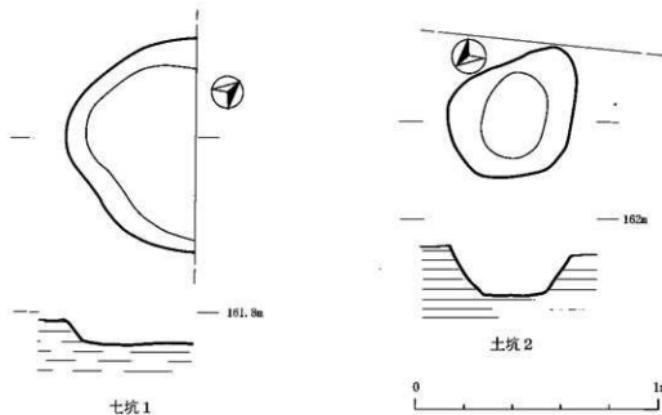
第4図 遺物分布図



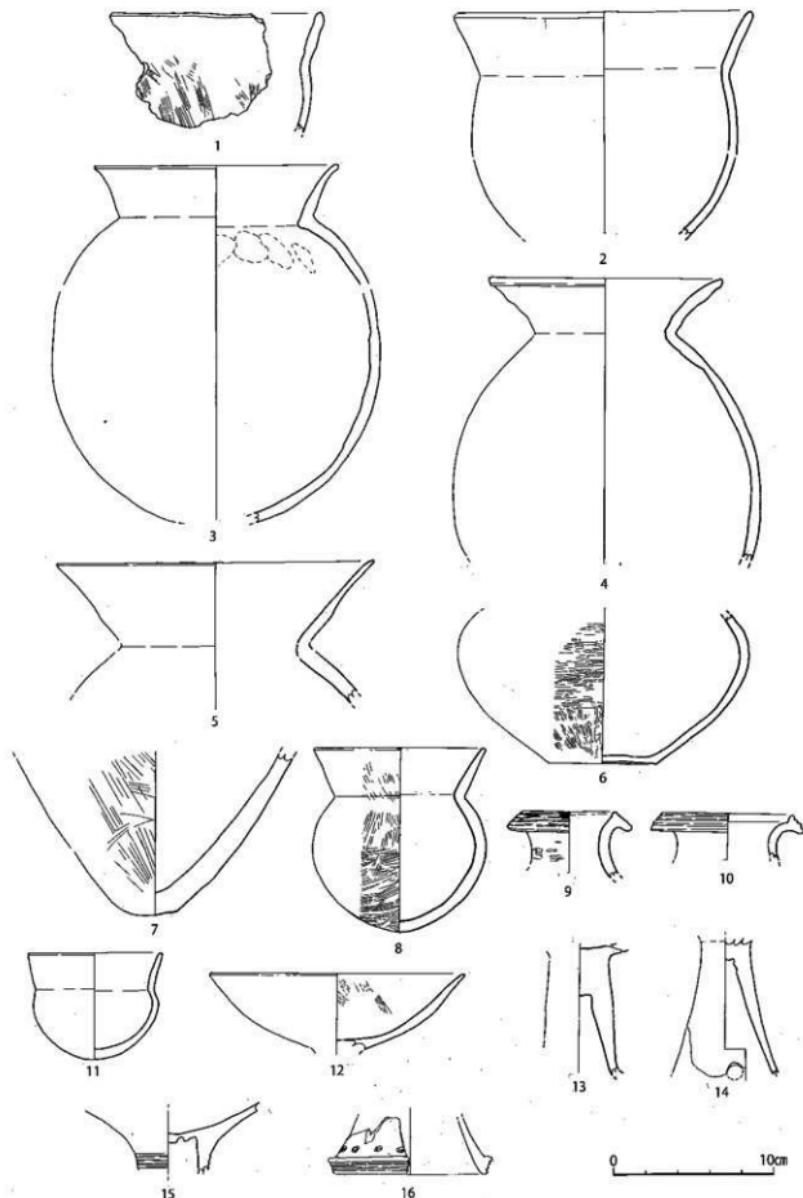
側、遺構検出前の黒色層中より出土。50は大溝の南、黒色土包含層から出土。51は調査開始直後の2月18日表土層最下部（地点不明）から出土している。48は高壙の脚部と思われる。裾野をやや肥厚させた面に幅広の凹線が走り、直上にヘラによる鋸歯文、4条の浅い沈線と続き、その上位に綫に浅い沈線の一部みられる。透かしの一部と思われる。56は胸部に右上がりのタタキ調整が残る。61は短辺の両端が折り返された幅6cm、長さ1.5cmの横長方形の鉄製穂摘具である。62は磨製の方形石包丁で短辺両側にえぐりがはいる。72は頁岩製の砥石片である。

土坑1(SC01) 径0.9m、検出面より深度0.1mほどを測る。全容は明らかでないが円形をなすと思われる。埋土は黒色土に疎細粒御池ボラを含む。

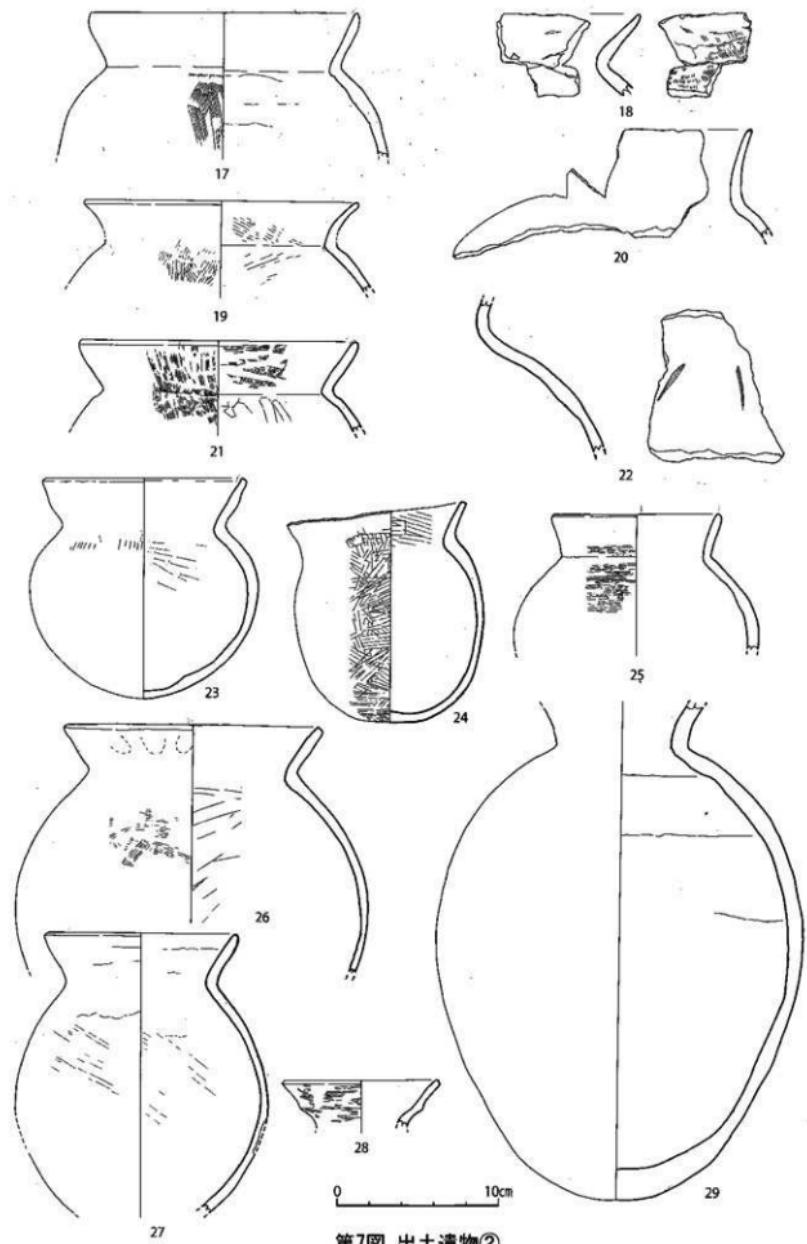
土坑2(SC02) 長軸0.6m弱、検出面より深度0.2mほどを測る。プランは橢円形をなす。埋土は黒色土に疎細粒御池ボラを含む。



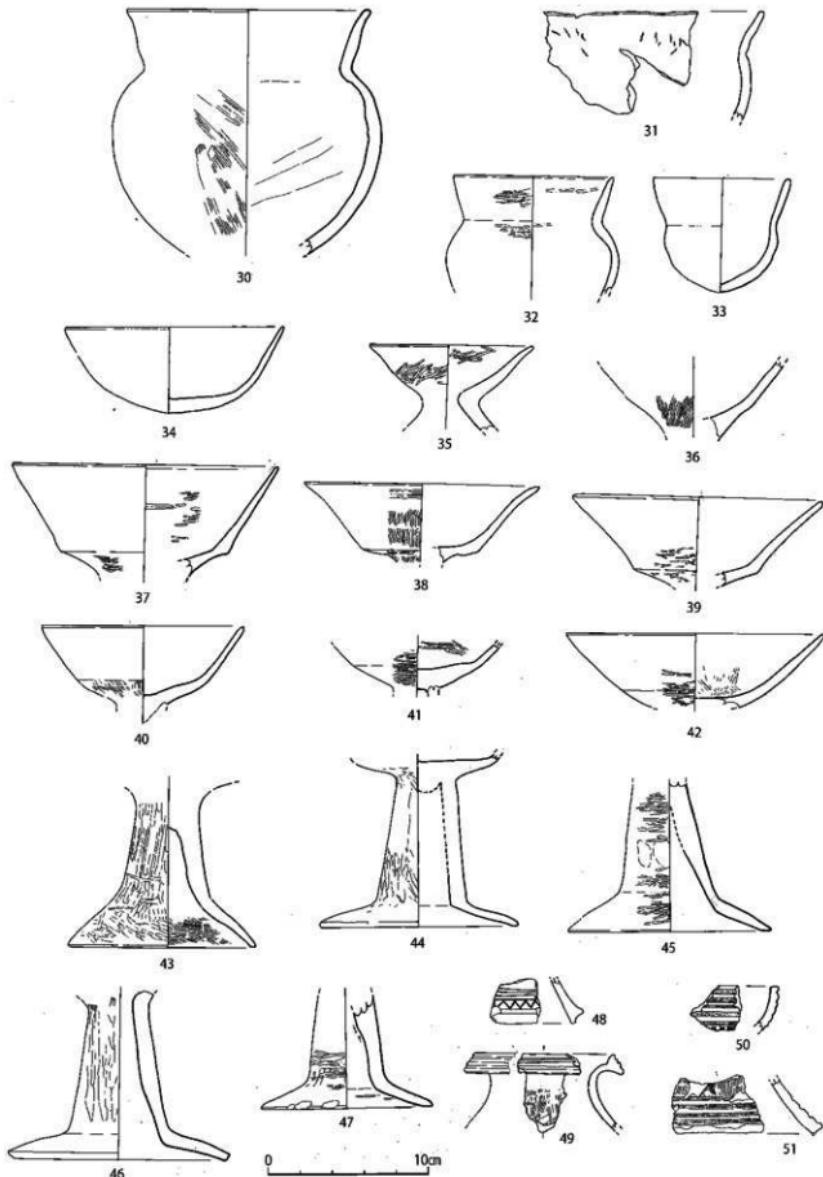
第5図 土坑



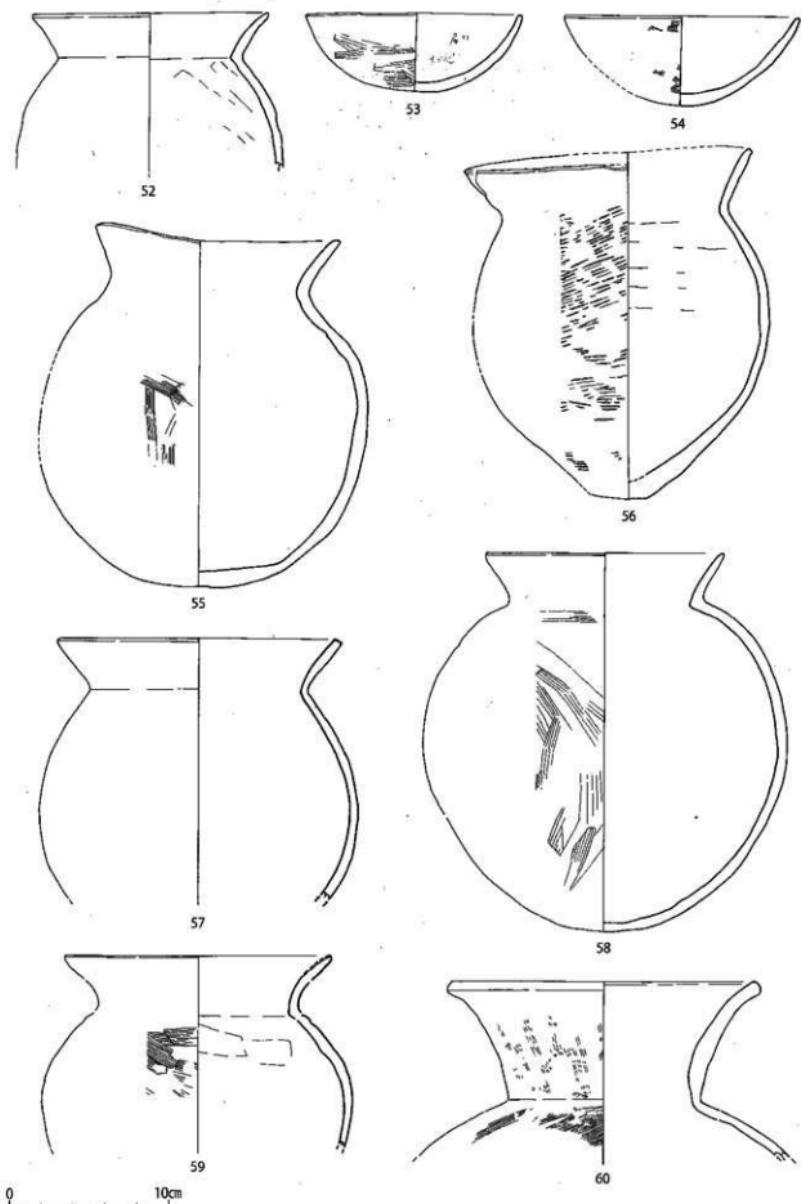
第6図 出土遺物①



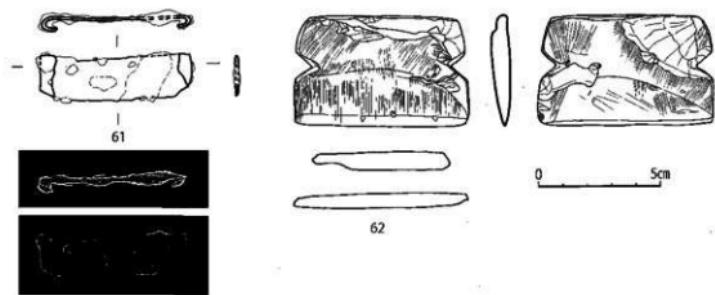
第7図 出土遺物②



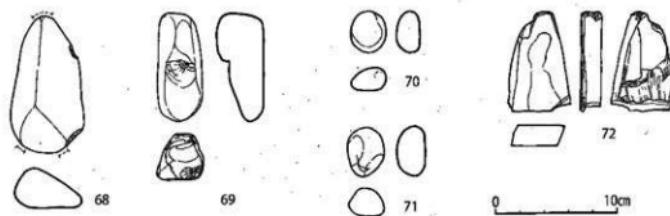
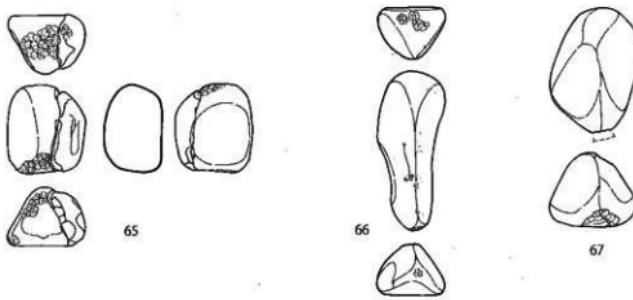
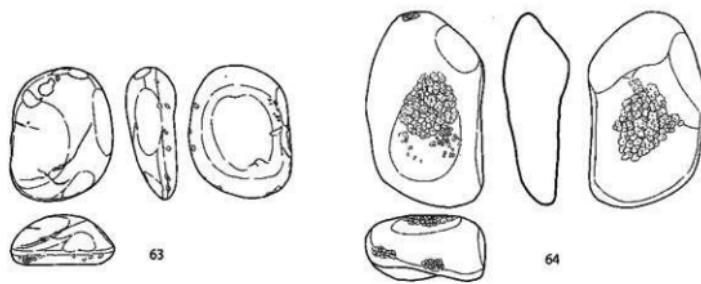
第8図 出土遺物③



第9図 出土遺物④



0 5cm



0 10cm

第10図 出土遺物⑤

拂区	番号	器種	出土遺構・ 取上げ番号	法量(cm) (5転復元)			調 整	色 調	胎 土	備 考	
				口径	底径	器高					
第6図	1	壺		317	—	—	外 ハケメのちナダ 内 ハケメのちナダ	内)にぶい黄橙(10VR7/3) 外)にぶい黄橙(10VR7/3)	2mm以下の 粘物を含む	外表面付着	
	2	壺	307 309 (18.5)	—	—	—	内外 ナダ	内)橙(7.SYR7/6) 外)橙(7.SYR7/6)	4mm以下の 粘物を含む	外表面全面付着	
	3	壺	147 229	15.0	—	—	外 ハケメのちナダ 内 類縦下曲張痕 頭部縱方向ケズリ	内)褐色(10VR1/4) 外)にぶい橙(7.SYR7/4)	3mm以下の 粘物を含む	外表面付着	
	4	壺		226	14.4	—	外 ナダ 内 橙、斜めの工具ナダ	内)にぶい橙(7.SYR7/4) 外)橙(7.SYR7/7)	1mm以下の 粘物を含む	口唇に横位の浅い 比較	
	5	壺	44 116 (19.5)	—	—	—	外ナダ 内ナダ ケズリ	内)橙(7.SYR7/6) 外)橙(7.SYR7/6)	2mm以下の 粘物を含む		
	6	壺	1595 1634	—	6.6	—	外 橙及び黒のミガキ 内 ナダ	内)灰青褐(10YR5/2) 外)赤褐色(5SYR4/6)		朱物	
	7	壺	207 327	—	丸底	—	外 ハケメのちナダ 内 ナダ	内)橙(7.SYR7/6) 外)にぶい橙(7.SYR7/4)	2mm以下の 粘物を含む		
	8	壺	265 1603	10.6	丸底	11.5	外 陶人形下ハケメ 乳頭大柱下ハケメのちナダ 内 ナダ	内)橙(SYR6/6) 外)橙(SYR7/6)	2mm以下の 粘物を含む	丸底	
	9	壺		1633	5.4	—	外 頭部ミガキ	内)にぶい黄橙 (7.SYR6/4) 外)にぶい黄橙 (7.SYR6/4)	1mm以下の 粘物を含む	口唇部に粗粒な4 条の凹線	
	10	壺			(8.0)	—	—	内)橙(SYR6/6) 外)橙(SYR6/6)	2mm以下の 粘物を含む		
	11	ミニ チニア	93 103 203	8.4	丸底	6.6	外 ナダ 内 ナダ	内)橙(7.SYR7/6) 外)橙(7.SYR7/6)			
	12	高坏	227 315	15.6	—	—	外 ハケメのちミガキ 内 ナダ	内)淡黄橙(7.SYR8/3) 外)淡黄橙(7.SYR8/3)	2mm以下の 粘物を含む		
	13	高坏		52	—	—	外 ミガキ	内)にぶい橙(7.SYR7/4) 外)にぶい橙(7.SYR7/4)	2mm以下の 粘物を含む		
	14	高坏		162	—	—	外 ミガキ	内)橙(7.SYR7/6) 外)にぶい橙(7.SYR7/4)	1mm以下の 粘物を含む	現存透かし1ヶ確認	
	15	高坏		1601	—	—	内外風化	内)にぶい黄橙 (7.SYR6/4) 外)にぶい黄橙(SYR6/4)	2mm以下の 粘物を含む	脚部上面に現存5条 の長い凹線がある	
	16	高坏		1110	—	(9.4)	外 ミガキ 内 ナダ	内)にぶい赤褐(SYR6/4) 外)にぶい赤褐(SYR6/4)	1mm以下の 粘物を含む	脚部前面に3条の沈 み、その上位に竹节	
第7図	17	壺	568 1043 1158	(16.4)	—	—	外 口縁横ナダ ネ船形ケズリ 内 口縁ナダ	内)にぶい橙(7.SYR7/4) 外)にぶい橙(7.SYR7/3)	3mm以下の 粘物を含む	外表面付着 底成型歴	
	18	壺		1228	—	—	外 口縫上位ヨコナダ 下位置 脚部横ナダ 内 口縫横方向ハケメ	内)にぶい橙(7.SYR7/4) 外)にぶい橙(7.SYR7/3)	3mm以下の 外表面付着 底成形成歴		
	19	壺	863 1522	(16.8)	—	—	外 ハケメ 内 ナダ	内)橙(7.SYR7/6) 外)にぶい黄橙(SYR6/4)	2mm以下の 粘物を含む	外表面付着 底成形成歴	
	20	壺	909 1507	—	—	—	外 ナダ 内 ナダ	内)淡黄橙(7.SYR8/4) 外)淡黄橙(7.SYR8/4)	2mm以下の 粘物を含む		
	21	壺		1193 (17.0)	—	—	外 縦横方向の細かいハケメ 内 ナダ	内)橙(SYR6/6) 外)橙(SYR6/6)	3mm以下の 粘物を含む		
	22	壺	657 1640	—	—	—	外 ナダ 内 ハケメ	内)橙(7.SYR7/6) 外)橙(7.SYR7/6)	1mm以下の 脚上部に断続(現 存2条の部分)		
	23	壺		1726 (12.4)	丸底	13.4	外 口縫横ナダ 内 脚部ケズリ	内)淡黄橙(7.SYR8/4) 外)橙(7.SYR7/6)	2mm以下の 粘物を含む	脚下部に多量のスス 付着 口唇ススあり	
	24	壺		1497	11.0	2.0	13.5	外 口縫一ロボナダ 口縫一頭部横のハケメ 脚部横擴なハケメ 内 口縫横ナダ	内)地灰(2.SYR8/1)～ にぶい黄橙(7.SYR6/4) 外)橙(SYR6/6)～ (2.SYR6/6)	2mm以下の 粘物を含む	
	25	壺	1393 1394 1700	(10.2)	—	—	外 口縫一頭部横のハケメ 内 口縫横ナダ	内)橙(SYR6/6) 外)橙(SYR6/6)～ (7.SYR6/4)	2mm以下の 粘物を含む	脚下部にスス付着	
	26	壺	348 450 577 1132 1473	(15.8)	—	—	外 口縫横ナダ 頭部ハケメ のちナダ 内 口縫横ナダ 頭部ケズリ	内)橙(SYR6/6) 外)橙(SYR6/6)～ (7.SYR6/4)	4mm以下の 粘物を含む	脚下部にスス付着	
	27	壺		874 (11.8)	—	—	外 ナダ 内 ナダ	内)にぶい橙(7.SYR7/4) 外)にぶい橙(7.SYR7/4)	3mm以下の 粘物を含む	脚部にスス付着 (1箇所あり)	
	28	壺		941 (9.6)	—	—	外 ミガキ 内 ミガキ	内)にぶい橙(7.SYR7/4) 外)にぶい橙(7.SYR7/4)	2mm以下の 粘物を含む		
	29	壺	1701 1723	—	—	—	外 口縫横ナダ 頭部ナダ 内 ナダ	内)橙(7.SYR6/6) 外)橙(7.SYR6/6)	3mm以下の 粘物を含む	脚部 下スス付着	

表1 出土遺物観察表1

揮函	番号	器種	出土遺構・ 取上げ番号	法量(cm)(反転復元)			調整	色調	胎土	備考
				口径	底径	器高				
第8図	30	壺	1198 1428 1534 1786 1788	(14.6)	—	—	外 口縁～肩部ナデ 以下ハケメ 内 刷毛ケズリ	内)浅黄褐色(7.5YR8/4) 外)浅黄褐色(7.5YR8/4)	4mm以下の 鉱物を含む	頭部に多量のヌス付着 11枚ススあり
	31	甕	1163 1186	—	—	—	外 ナデ 内 刷毛ケズリ	内)にぶい緑(7.5YR8/4) 外)にぶい緑(7.5YR8/4)	1mm以下の 鉱物を含む	
	32	壺	28 1470	(9.8)	—	—	内外 ミガキ	内)緑(5YR6/6) 外)緑(5YR6/6)	1mm以下の 鉱物を含む	口縁までスス付着 焼成堅密
	33	ミニ チュア	385 388	(8.2)	—	6.8	外 ナデ	内)浅黄褐色(7.5YR8/4) 外)浅黄褐色(7.5YR8/4)	2mm以下の 鉱物を含む	
	34	マリ	1159	(13.8)	—	5.2	内外 ナデ	内)緑(5YR6/6) 外)緑(5YR6/6)	1mm以下の 鉱物を含む	風化している
	35	小型 器台	1753	(9.8)	—	—	内外 ミガキ	内)にぶい緑(7.5YR7/4) 外)にぶい緑(7.5YR7/4)	1mm以下の 鉱物を含む	
	36	高坏	656	—	—	—	外 ハケメ 内 ナデ、ミガキ	内)灰白(10YR8/2) 外)浅黄褐色(10YR8/3)	1mm以下の 鉱物を含む	
	37	高坏	471 862 1349 1676	(15.8)	—	—	外 ミガキ 内 ミガキ	内)緑(5YR7/6) 外)緑(5YR7/6)	1mm以下の 鉱物を含む	
	38	高坏	179 643 1336	(14.0)	—	—	外 ハケメ 内 ナデ	内)浅黄褐色(10YR8/3) 外)浅黄褐色(10YR8/5)	2mm以下の 鉱物を含む	
	39	高坏	1268	(15.0)	—	—	外 ミガキ 内 ナデ、ミガキ	内)緑(7.5YR7/6) 外)緑(7.5YR7/6)	1mm以下の 鉱物を含む	
	40	高坏	1467	(12.0)	—	—	外 異曲面部にミガキ下ハケメ 内 亂刷	内)緑(5YR6/6) 外)緑(5YR7/6)	1mm以下の 鉱物を含む	
	41	高坏	711	—	—	—	外 ミガキ 内 ミガキ	内)緑(5YR6/6) 外)緑(5YR6/6)	1mm以下の 鉱物を含む	焼成堅密
	42	高坏	1284 1318 1460 1477	(15.4)	—	—	外 ミガキ 内 ハケメのちミガキ	内)明赤褐色(2.5YR8/6) 外)明赤褐色(2.5YR8/6)	2mm以下の 鉱物を含む	口唇部スス付着
	43	高坏	1449 1819	—	(11.2)	—	内 ミガキ 内 ハケメ	内)灰褐色(10YR8/1)～緑 外)緑(5YR6/6)	4mm以下の 鉱物を含む	焼成堅密
	44	高坏	1466 1475	—	11.8	—	外 ハケメのちミガキ 内 ナデ	内)緑(7.5YR6/6) 外)緑(7.5YR6/6)	2mm以下の 鉱物を含む	焼成堅密
	45	高坏	1210	—	12.3	—	外 ミガキ 内 ナデ	内)緑(5YR6/6) 外)緑(7.5YR7/6)	2mm以下の 鉱物を含む	焼成堅密
	46	高坏	480 904	—	12.8	—	外 ミガキ 内 ナデ	内)にぶい緑(7.5YR7/3) 外)にぶい緑(7.5YR7/3)	1mm以下の 鉱物を含む	焼成堅密
	47	高坏	766 1820	—	(10.2)	—	外 ミガキ 内 ナデ、ミガキ	内)緑(5YR6/6) 外)緑(5YR6/6)	1mm以下の 鉱物を含む	焼成堅密
	48	高坏	大崩内南側	—	—	—	内 ナデ	内)にぶい緑(5YR8/4) 外)にぶい緑(5YR8/4)	2mm以下の 鉱物を含む 器内に細膩文と 4条の縞模様	
	49	壺	包含層	(8.2)	—	—	外 ハケメ 内 ナデ	内)明赤褐色(2.5YR8/6) 外)明赤褐色(2.5YR8/6)	3mm以下の 鉱物を含む	口唇に3条の間隙
	50	高坏	包含層	—	—	—	内 ミガキ	内)にぶい緑(7.5YR7/4) 外)にぶい緑(7.5YR7/4)	1mm以下の 鉱物を含む	口唇直下8条の間隙 その内に崩れの跡
	51	高坏	包含層	—	—	—	外 ハケメのちナデ 内 ナデ	内)緑(5YR6/6) 外)緑(5YR6/6)	3mm以下の 鉱物を含む	器内に4条の内縫そ の上に火跡跡と思わ れる感かしの跡
第9図	52	甕	1282	(14.0)	—	—	外 ナデ 内 ナデ、ケズリ	内)浅黄褐色(7.5YR8/6) 外)浅黄褐色(2.5YR7/6)	1mm以下の 鉱物を含む	
	53	マリ	1212	(12.8)	—	4.7	外 ハケメ 内 ナデ	内)浅黄褐色(10YR8/4) 外)浅黄褐色(10YR8/3)	1mm以下の 鉱物を含む	焼成堅密
	54	マリ	483 653 784 1300	(13.8)	—	5.3	外 ハケメのちナデ 内 ナデ、ミガキ	内)緑(5YR6/6) 外)緑(5YR6/6)	3mm以下の 鉱物を含む	焼成堅密
	55	甕	1446 1486 1619	14.5	21.6	2.5	外 ハケメ、ナデ 内 ナデ	内)にぶい緑(7.5YR7/4) 外)緑(7.5YR7/6)	3mm以下の 鉱物を含む	焼成堅密
	56	甕	1503	16.8～ 17.2	3.5	19.4～ 20.6	外 口縁ナデ 刷毛タタキ 肩下部タタキのちナデ 内 ナデ	内)緑(7.5YR7/6) 外)緑(7.5YR7/6)～(5YR7/6)	3mm以下の 鉱物を含む	外表面スス付着 底部はさうじて平底
	57	甕	1066 1226 1227	(16.8)	—	—	外 ナデ 内 ナデ	内)緑(7.5YR7/6) 外)緑(7.5YR7/6)	4mm以下の 鉱物を含む	外表面全体にスス付着
	58	壺	1140 1142 1486 1487	14.0	—	22.5	外 ナデ、ハケメ 内 ナデ、ケズリ	内)にぶい緑(10YR8/3) 外)浅黄褐色(5YR8/4)	3mm以下の 鉱物を含む	外表面全体にスス付着
	59	壺	82 83	(15.8)	—	—	外 ハケメ 内 ケズリのちナデ	内)にぶい緑(5YR7/4) 外)にぶい緑(5YR7/4)	3mm以下の 鉱物を含む	外表面スス付着
	60	壺	812 1445 1450 1461	18.0	—	—	外 ハケメのちナデ 内 ナデ	内)にぶい緑(7.5YR7/4) 外)にぶい緑(7.5YR7/4)	1mm以下の 鉱物を含む	焼成堅密

表2 出土遺物観察表2

4. 小結

遺跡の環境は鶴塚川系のひとつ、標高898mの東岳山腹から幾筋かの谷川が谷間で合流し、東岳川となり西流し川之口町麓集落付近で視界が開け、その1kmほど下流の扇状地北端に遺跡は立地する。遺跡から北面を望むと北から牧ノ原台地が迫り沖積地が狭まりやや窮屈さを感じさせる。

今回の調査は調査面積が狭小なため遺跡の全容は不明な点が多い。川上した主道構の大溝は御池ボラ層を貫きアカホヤ層まで達している。掘削廃土の御池ボラが周囲に散在しているため、自然堆積層の黒色土中に黄色ボラが際立ち当時の地表面を明瞭にしている。これは地下式横穴墓構築時のボラ廃棄に状況が似ている。また、この人溝と呼称している遺構の幅員は4.7~5mほどだが、走行(形状)について調査区幅2.5m程度しか調査していないため不明である。掘り方は南側の立ち上がりについては検出面からほぼ垂直に落ち40cmほどで屈曲しながらかに下降する。一方、北側は検出面のプランがやや不明瞭である。こちらも60cm下で屈曲するがその部分に粘質の強い黒色土が壁面を補強するかのように横たわっている。大溝の埋土は検出面から1m下までは自然堆積層の2層が基調でそれに粗細粒の御池ボラが満遍なく混ざっている。その下位は黒色土や御池ボラが主として堆積している。

遺物は番号を付して取上げたもの1825点、そのうち掲載した遺物は72点である。遺物の分布は大溝内とそれ以外(大溝の北側)に分けられる。人溝北側の6、9は黒色土埋土の遺構内で、6は丹塗の壺、9は凹線が粗雑化している。また、洞の張らない甕(1)、球胴甕(3)、小型丸底甕(8)なども出土している。大溝内についてはタタキを施す甕(56)、球胴甕(58)などは破片も大きく出土部位は側壁直上である。ほか複合口縁壺(28)の退化したもの、小型壺形土器(32)、小型鉢形土器(33)、高坏(37~42・44~47)、小型器台(35)などが出土している。このほか石器では抉り入り石包丁や金属製品が出土している。最後に大溝は埋土、形状や遺物出土状況から竪穴住居等の何らかの遺構との切り合い関係も想定されるが、遺物は弥生時代後期初頭から古墳時代初期に収まると思われる。

主な参考文献

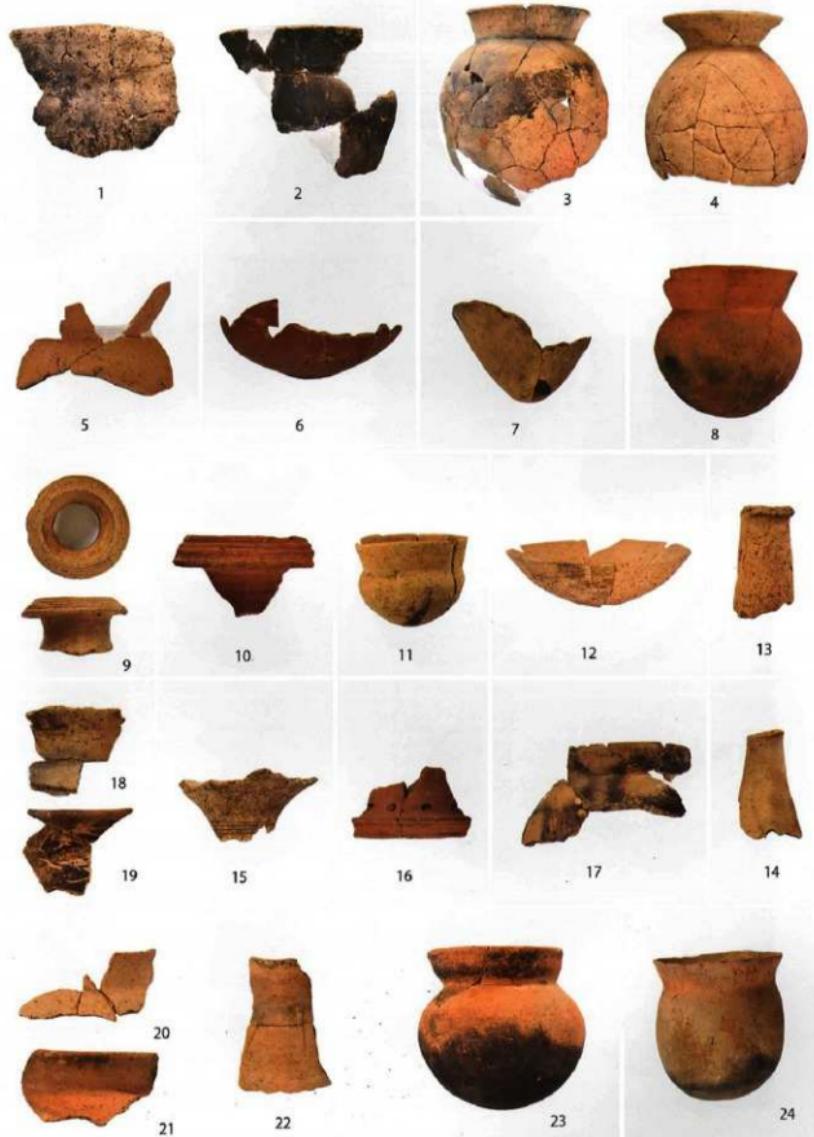
- 加賀洋一「郡城盆地における弥生時代終末期から古墳時代初頭の土器様相」『福井県の古代を語るレジュメ』
池側耕一「竪穴内遺物の出土とその背景—1世紀前半の南九州—」『藤木義昌先生古希記念論集 考古学と関連科学』
石川悦雄「弥生時代後半から古墳時代前期の土器編年にむけて—下寮：高坏—」『宮崎県総合博物館研究紀要15』
松永幸寿「宮崎平野部における弥生時代後期中葉～古墳時代中期の土器編年」『宮崎考古 第17号』
吉本正典「日向の庄内式併行期の土器」『考古学ジャーナル』



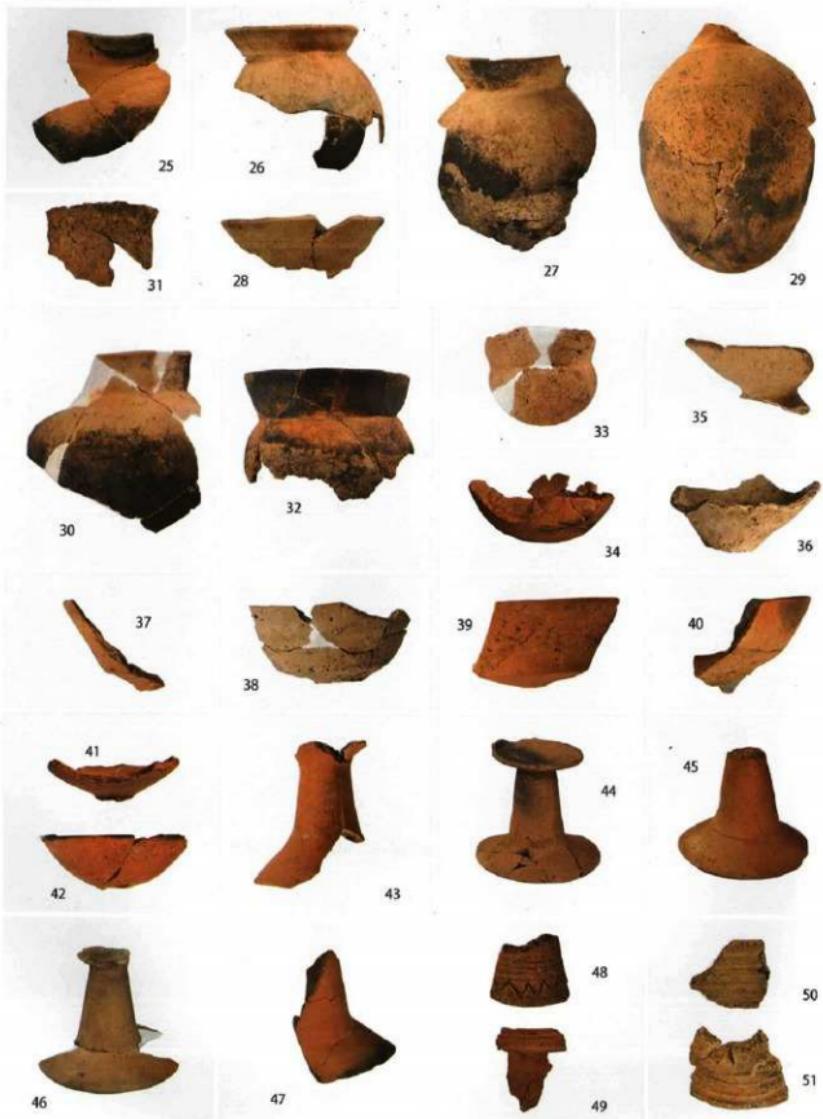
写真図版 2



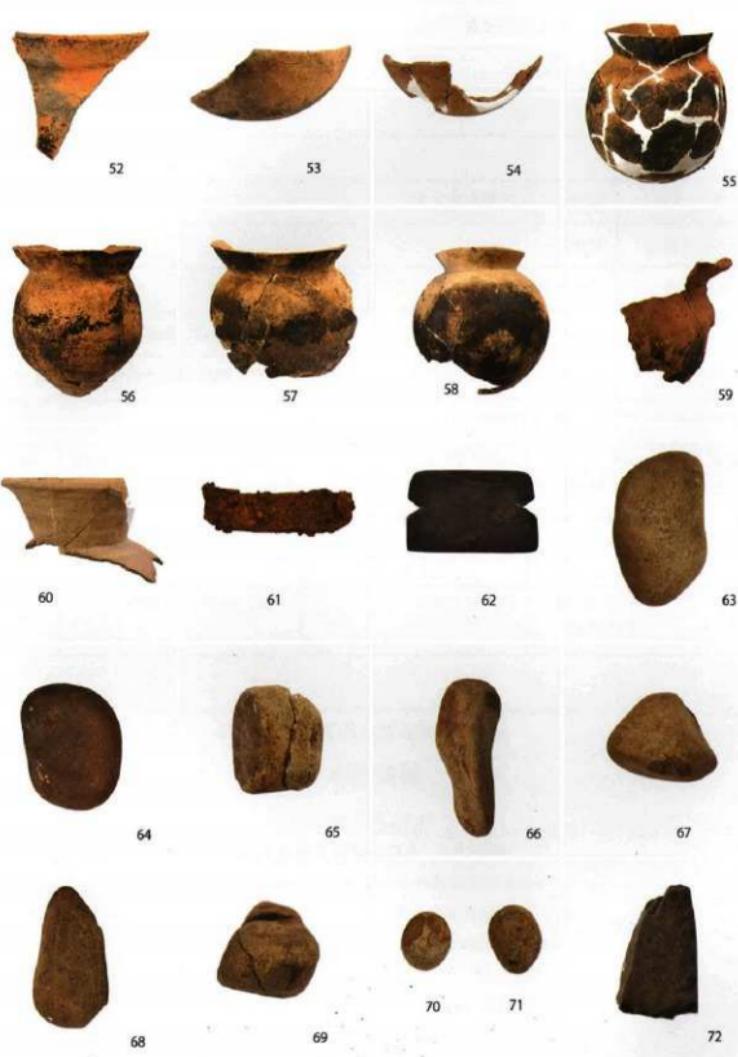
写真図版 3



写真図版 4



写真図版 5



報告書抄録

書名(ふりがな)	ほんまついせき					
書名	二本松遺跡					
副書名						
巻名						
シリーズ名	都城市文化財調査報告書					
シリーズ番号	第96集					
著編集者	矢部喜多夫					
発行機関	宮崎県都城市教育委員会 Tel0986-23-9547 fax0986-23-9549					
所在地	〒885-0013 宮崎県都城市菖蒲原町 19-1 号 都城市役所菖蒲原町別館					
発行年月日	平成 22(2010)年 3 月					
所収遺跡名	所在地	北 緯	東 綏	調査期間	調査面積	調査原因
二本松遺跡	宮崎県都城市 高城町大井手 2219-1	31° 47' 31" 付近	131° 8' 56" 付近	平成21年2月16日 ～3月19日	53 m ²	農道新設
種 別	主な時代	主な遺構		主な遺物		特記事項
集落	弥生後期～ 古墳前期	大溝、土坑		土器、石器、鉄製品		

都城市文化財調査報告書第96集

二本松遺跡

2010年3月18日

編集 宮崎県都城市教育委員会 文化財課

発行 〒885-0034 宮崎県都城市菖蒲原町19-1

都城市役所菖蒲原町別館

TEL (0986) 23-9547 FAX (0986) 23-9549

印刷 株式会社 都城印刷

〒885-0055 宮崎県都城市早鎌町1618番地

TEL (0986) 22-4392 FAX (0986) 22-4891
